

園の輪

そののわ No.187

学校法人 甲子園学院



林間学校(甲子園学院小学校)

CONTENTS

〈ESSAY 2024〉…………… 2	〈学校園だより〉…………… 4～9
「甲子園大学の野鳥たち」 青柳 寛之	幼稚園 小学校 中・高校 短大 大学
〈学院トピックス〉…………… 3	学院生の活躍…………… 10
宝塚市より「まちづくり功劳」受賞 大学・短大ともに令和5年度機関別認証評価にて「適合」「適格」に認定 学院物故者慰霊塔参拝(高野山)	

甲子園大学の野鳥たち

青 柳 寛 之



甲子園大学はご存知の通り、宝塚の山の上にあります。自然が豊かで環境がよい、と学生や保護者の方によく言われます。実は私は野鳥の声を聞くのが好きで、大学で仕事をしているときに、時折聞こえてくる声に耳を澄ますのが何とも心地よく、自身でも環境のよさをいつも実感しています。この機会に印象的な野鳥を二種類だけですが、紹介しようと思います。

大学で野鳥の声に注意を向けるようになった発端はホトトギスです。青葉の季節になると、遠くで鳴いているのが聞こえてきます。私には「ケツキヨホケキヨ」と聞こえたので、下手なウグイスが鳴いているのかと思っていました。しかし、しばらく聞いていてもまったく上手になる気配がないので調べたところ、ホトトギスだとわかりました。ハトより少し小さい鳥で、なんとウグイスに托卵する性質があります。「目には青葉 山ほととぎす 初鰹」という句がありますが、長らくホトトギスだけイメージが浮かばずにいました。甲子園大学に来て、初めてホトトギスを知ることができたというわけです。

イソヒヨドリは大学の教職員と学生はみなさん知っているのではないのでしょうか。大学の渡り廊下の屋根の中に巣を作っています。オスは青とオレンジのツートンカラー、メスは茶褐色で、普通のヒヨドリとほぼ同じくらいの大きさです。「イソ」という通り、本来は海沿いの急峻な岩場に住む鳥ですが、マンションと岩場が似ているらしく、近年都会で増えています。この鳥はなかなか存在感があり、ふだんは大学の建物の屋上の隅から顔を出して、なんともきらびやかな声で鳴いています。求愛なのか、いかにも自己アピールといった声です。かと思えば「ギョッギョッギョッ」とカエルのような低い声で鳴くこともあります。イソヒヨドリの雛は巣立つてもしくはばらくは飛ぶことができず、その間は親がエサを与え続けなければならないようです。一度だけその姿を見たことがあります。親がエサを咥えて、カエルのような声で鳴いています。その近くには巣立つばかりの子どもがいて、動けずにいるようでした。まるで親が「こっちにエサがあるぞ、来い」と言っているように見えました。ほかにも様々な姿を二年中見せてくれて、身近にいてまったく飽きない鳥です。

大学にはほかにたくさんさんの野鳥がいて、いつも何かの鳥の声を聞くことができます。私にとっては、それが季節の動きを感じる大事な手がかかりになっています。季節の動きをリアルに感じると、自分も自然界の生き物の一員であるのだ、と感じることがあります。それは、人の社会の時間の流れとは違うものが自分の中にあることを改めて感じさせてくれます。ぜひ一度、大学で耳を澄ませてみてください。

あおやぎ ひろゆき ●甲子園大学心理学部長・教授

京都大学教育学部卒業、京都大学大学院教育学研究科 博士課程単位取得後退学 修士（教育学）臨床心理士・公認心理師。
平成9年4月、甲子園大学人間文化学部助手として着任、平成13年専任講師、平成22年准教授、令和5年4月教授。
同年4月心理学部長。

宝塚市より 「まちづくり功労」 受賞

甲子園大学が宝塚市より「まちづくり功労」を受賞しました。

令和六年四月二十日、宝塚ホテルにおいて宝塚市制七〇周年記念式典が執

り行われ、

甲子園大

学に「ま

ちづくり

功労」が

山崎晴恵

市長より

授与され

ました。



新園長就任

本年度、甲子園学院幼稚園に、澁谷倫子園長が就任しました。



幼稚園長
澁谷 倫子

この度、歴史ある甲子園学院幼稚園園長を拝命し、身の引き締まる思いでおります。

学院の校訓三綱領「勤勉努力」「和衷協同」「至誠一貫」のもと、人間教育を第一理念とし、様々な活動や体験ができる保育を継承・創造してまいります。

この賞は、宝塚市制七〇周年を記念し、長年にわたり市の発展に寄与された人・団体に贈られ、その功績をたたえるものです。

伏木亭学長は甲子園大学の代表として出席し、また来賓として久米知子理事長・学院長が臨席されました。

大学は、平成二十五年八月に地域連携推進センターを設置し、九月に宝塚市と「包括連携協定」を締結しました。平成二十七年から「たからづか食育フェア」に参加し、クイズやゲーム、掲示物などを用いて子どもから高齢者までの幅広い年齢層に向け食教育を行ってききました。また、地域の子育てを支援する目的で「三歳児子育て講座」「思春期講座」などを開催

この春に入園した子どもたちは緊張した面持ちの中でも、隣にいる子どもの様子をのぞき込んだり、真似をしてみたり、関わりが芽生え始めています。また、担任の先生の顔が見えたと一目散に駆け出していく姿に、ほんの数日のうちにも、自分の居場所を見つけ始めているのだと感じます。

子どもたちにとって社会生活の始まりである幼稚園生活は、喜びと愛情にあふれた場所でありたいと思います。その環境の中で子どもが存分に自己発揮し、友だちと関わる充実感を味わえる保育を積み重ねてまいります。

し、年二回の「子どもの心理・発達無料特別相談会」では、日常生活における子ども心理・発達に関する悩み相談や子育て支援に取り組んでいます。

大学・短大ともに 令和五年度機関別認証評価にて 「適合」「適格」に認定

平成十七年度から、全ての大学、短期大学、高等専門学校は七年以内ごとに文部科学大臣が認証する評価機関の評価を受けることが法律で義務付けられました。目的は、大学等の教育研究活動の質の向上と改善を支援することで、大学等の内部質保証機能が充実・発展することにあります。令和五年度に、甲子園大学、甲子園短期大学はそれぞれに認証評価を受審しました。

大学

公益財団法人日本高等教育評価機構評による大学機関別認証評価を受審し、自己点検・評価報告書での書面調査及び令和五年十一月・十二月の実地調査に基づき、令和六年三月十五日付で、評価機構が定める大



学評価基準に「適合」していると認定され、特記事項では、I P E (多職種連携教育)の実施について「優れている」と評価されました。

学院物故者慰霊塔参拝 今年も高野山へ

学院創立記念日の五月一日、高野山の学院

物故者慰霊塔参拝が行

われました。

今年は雨模様でしたの

で、金剛三

昧院のお堂

で参拝し

ました。



短大

一般財団法人大学・短期大学基準協会による機関別認証評価を受審し、自己点検・評価報告書での紙面調査及び令和五年十月の訪問調査に基づき、令和六年三月八日付で短期



大学評価基準を満たしているとして「適格」と認められました。この評価には「特に優れた試みと評価できる事項」として、基準協会の「内部質保証ルーブリック」への全教職員の取組みを基本に、建学の精神の理解と実践への特別演習、学生の自己能力のリーダーチャートでの確認、認定絵本士養成を加えた保育者養成、学生寮・生活実

習ハウス・園芸実習場等の教育資源の活用等が挙げられました。

金剛三昧院・久利康彰導師の読

経の中、理事

長及び法人・

各学校園教職

員と翠柳会

(学院各学校

卒業の学内職

員の会) 会員

の計六十二名

が焼香を行い、

校祖久米長八

先生をはじめ、祀られている学院

関係者の御霊に、ご冥福をお祈り

しました。



慰霊塔建立の由来

校祖第十三回忌追悼式(昭和四十一年)以降は、学院関係者(教職員・卒業生・在校生)の御霊の合祀を行うこととなり、学院物故者慰霊塔の建立はそのとき以来の念願になっていました。

しかしその建立については学院発祥の地とすべきか、あるいは他に適地を求むべきかなど種々検討されていましたが、適地の取得には難しい点もあり、長年懸案事項となっていました。

最終的には校祖久米長八先生がしばしば登り、参拝されていた高野山の、しかも抜群の立地条件を満たす場所を得ることができ、昭和六十二年十月に地鎮祭、翌年六月に開眼法要が盛大に執り行われました。

入園式

暖かく心地よい春風の中、四月十日に新しく入園を迎えた子どもたちと、満三歳児クラスから進級した子どもたちの入園式が行われました。

担任に名札を付けてもらい、嬉しいような、恥ずかしいような、何とも言えない表情を浮かべながら、



保護者としつかり手をつないで、会場のホールへ入りました。はじめはドキドキして緊張で肩が少し上がっていましたが、園長先生の話に耳を傾けたり、年長児のお兄さんやお姉さんのベープサートを使った幼稚園の紹介を聞いたりし、わくわくした表情を見せていました。みんなで、「チューリップ」の歌を歌い、無事に式を終えることができました。

入園式後、保育室に移動をしましたが、その頃には緊張も解れ、保育室の玩具が気になって、早く遊びたそうな子どももいました。これから始まる園生活、「お休みの日も幼稚園に行きたいー」そんな風に思えるような楽しい園生活になることを願っています。

歓迎会

四月十八日

今年度は、年長児三名、年中児四名、年少児三十六名（満三歳児クラスから進級した二十四名を含む）の新入園の子どもたちを迎えて始めました。その最初の行事となった歓迎会をホールで行いました。はじめの行事に期待で胸を膨らませた新入園児と、新しい



友だちを迎える嬉しさと進級した喜びでいっぱい進級児が顔を合

当番活動



年長組
昨年度末、前年長児から引き継いだ当番活動。この頃から、自分たちがもうすぐ年長児になるんだという自覚が芽生え、張り切っていたという保護者からの声も聞かれるほど憧れている活動でした。仕事内容は「倉庫の掃き掃除」「園庭のおもちゃ出し」「靴箱の掃除」「プーさんパトロール」の四つ。はじめ、子どもたちは「プーさんパトロール？」と首をかしげていましたが、玄関やホール後方にあるプーさんを綺麗に整える仕事だ

わせた歓迎会は、大きな拍手と笑顔に包まれて始まりました。花のアーチをくぐって入場した新入園児たちは、年長児からプーさんのペンダントを首にかけてもらったり、年中・年長児から「さんぽ」の歌を聴かせてもらったりして、楽しい時間を過ごすことができました。また、新入園児は元氣よく「チューリップ」の歌を歌い、とても温かな雰囲気の中、歓迎会に進んでいきました。プーさんのペンダントがすっかりお気に入りになった新入園児たち。嬉しそうに両手で抱え、何度も何度もペンダントを見返したり、見せ合ったりをしたりする姿がとても可愛らしく印象的な光景でした。



とわかると、大きなプーさんを抱きかかえて座らせたり、真剣な表情で並べたりしている姿は、年長児とはいえず、とても可愛く、見ていると自然に笑みがこぼれます。一つ一つの仕事をしながら「いつも年長さんはこんなことをしてくれていたんだな」と実感している様子も伺えます。年長児としての自覚や責任感を一緒に引き継ぐことはとても大切なことだといえます。

甲たん

預かり保育

新年度になり、預かり保育の子どもたちの顔ぶれも少し変わりました。卒園したお兄さんお姉さん



を思い出しながら自分たちも進級した自覚が芽生えています。同年齢でのクラス活動とは違い預かり保育での活動は、縦割りでの経験

つぶやき Pick up

すくすく大きくなあれ

年中組の当番活動の一つに「やかんの返却」があります。保育室でお茶を飲むために使ったやかんを、給湯室まで返却するという仕事です。その活動の中で数日続いた出来事を紹介します。

保育室に帰ってきた担任と担当さんとの会話です。
T「おかえり。大丈夫だった？」
C「うん！でもね、途中で迷子になった」T「え！迷子になってどうしたの？」C「廊下でA先生が教えてくれて、そのあと職員室の前でB先生が教えてくれたの」
進級園児C1ちゃんと新入園児C2くんのお当番さん。担任は、C1

が得られます。遊びの場面では、年長児の作るブロックや制作物に注目し、真似てみる年少児の姿があります。憧れの気持ちをもっている様子が伝わってきます。
降園の支度をしていると「こうしたらいいよ」と声をかけながら手伝ってくれる年長児の様子も見られます。教えてもらう嬉しさは勿論、誰かの役に立てる年長児の喜びもかけがえのないものです。おうちごっこではみんなでお膳を囲んで「美味しいね」と会話が弾み、大家族の食卓のようです。預かり保育の中でも様々な関わりを通して共に成長できる毎日です。
ちゃんに「C2くん、初めてだからよろしくね」と言って送り出しますが、なぜかやかんを持ったまま帰ってきました。
T「あれ？どうしたの？」C2「職員室の前まで行つたんだけど、そこから道がわからないってC1ちゃんが言うから、一回戻ってきたの」T「C1ちゃん、わからなくなっちゃったの？」C1「うん」T「じゃあ、わかるとこまで一緒に行くこーか」
子どもたちのよく知っているはずの幼稚園ですが、新しい保育室になると見える景色が違うのでしょう。「迷っちゃった」と言いながらも、彼らの表情は「お当番の仕事は最後までやり遂げた」と誇らしげに輝いていました。

新一年生です

よろしくね

入学式・昼食会・学校探検・親子の集い

○入学式・昼食会（四月十日）

四月十日、美しい桜も残る麗らかな日の入学式。十五名の新一年生は、六年生に手を引かれ体育館に入場しました。緊張した顔をしながらも、呼名に対し大きく元気な返事。式終了後には食堂で和やかな昼食会。兄弟関係で参加していた在校生が飲み物を注いでくれ、家族や職員とともに楽しく過ごすことができました。



○学校探検（四月十九日）

一年生は二年生に案内をしてもらいながら、学校探検をしました。はじめて入る教室に目をキラキラと輝かせながら、各教室を見まわりました。たくさん用意されたスタンブラリーやクイズにも挑戦し、最後まで楽しく学校について知ることができ皆大満足。学校案内の最後には、教室で二年生



教室案内の最後には、教室で二年生

が絵本の読み聞かせをしてくれたので、後日、一年生は二年生にお礼の手紙を渡し、感謝の気持ちを伝えました。一・二年生の交流が深まる良い機会となりました。

○親子の集い（四月二十日）

天候に恵まれ、イネーブルガーデンで行われた親子の集い。ガーデン内を散歩したあと、芝生の上で皆とお昼ご飯を食べたり、おにごっこをしたりして楽しい時間を過ごしました。また、ガーデン内の花を使って、素敵なフラワーケーキを作ることができました。



すばらしい先輩たち

大野 純一



第四十七期生
兵庫医科大学卒
兵庫医科大学病院勤務

私は幼稚園と小学校の八年間を甲子園学院でお世話になりました。小学校卒業後約二〇年経過しましたが、小学校時代のことはよく覚えていいます。

「園の輪」は学院創立六〇周年

林間学校

五月十五・十七日

●高野山・奈良県天川村

二・五年生は和歌山、奈良方面へ。はじめに高野山へ向かい、金剛三昧院で



昼食後、奥の院にある学院物故者慰霊塔に参拝しました。校祖先生、前学院長先生をはじめ学院関係物故者の方々に、感謝の気持ちを伝え、学校での頑張りを報告しました。

天川村の一日目の夜。盛り上がったキャンプファイヤー。二日目三日目は自然の中のハイキング。

のときの

表紙の絵に選んでいただきました。

毎日のグ



ラウンドでの遊び、林間学校、夜行列車で行った北海道の修学旅行、久米翠娥先生にご指導いただいた習字クラブなどイベントや何気ない日常がすぐに浮かんできます。とはいえ、じっくり考えると勉強するという基礎ができたのは小学校時代です。

二日目の面不動鍾乳洞はライトアップされた美しい姿、三日目の五代松鍾乳洞はヘルメットをかぶり狭い中を進んでいく探検気分が味わえるものと、それぞれ違った雰囲気でした。

●ユニピアささやま

一・三・四・六年生は篠山方面へ。初日は立杭陶の郷で絵付け体験と、日本へそ公園でのプラネタリウムによる天体の学習。その後ユニピアささやまに移動し、夜はホールでゲーム大会。歌や踊りを交えて大いに盛り上がり親睦を



医師十年目となりましたが、診断や治療の新しいエビデンス、発表などずっと勉強がついてまわります。当時は習熟度別学習などもあり、時に厳しく時にジョークを交えて楽しく親身に指導してくださいました。現在大学病院の循環器内科医として最新の医療に関わり診療にあたっています。当時想像もしていなかった今の自分ではあります。今、自分の基盤は間違いなく小学校時代だと思えます。甲子園学院では何物にも代えがたい貴重な経験をさせていただき、本当に感謝しています。

球技大会

五月日

深めました。二日目は、オリエンテーリング、焼き板作り、キャンプファイヤーと盛り沢山の活動。昼食は六年生が心をこめておいしいカレーライスを作りました。キャンプファイヤーではスタンツに加え、美しい星空の観察。三日目は元気いっぱいフィールドアスレチックを楽しみました。

この林間学校で、五・六年生はリーダーとしての役割をしっかりと果たし、また、協力し合うことの大切さを学ぶことができ、大きく成長できたようです。



今年の球技大会も天候に恵まれ、運動場で行いました。一・二年生は「転がしドッジボール」、三・四年生は「ドッジボール」、五・六年生は「王様ドッジボール」。児童たちは、はつらつとしたプレーを見せ、試合は大変盛り上がりました。白熱した試合をしている子どもたちの応援の声。勝敗にこだわるだけでなく、仲間と協力することの大切さを感じながら楽しみました。

学院での新生活始まる

中学年・高校二年

○入学式

四月九日、令和六年度中学校・高等学校入学式を講堂にて行いました。久米知子理事長・学院長

先生をはじめ、ご来賓の方々に多くの保護者にもご参列いただきました。また、今年度は中学校三年生、高



校三年生も参列しました。

大きな拍手の中、新入生たちは担任の先生の先導で入場し、中・高各代表生徒二人による宣誓を行いました。リハーサルから二人の息はびったりと合っており、式本番も立派な宣誓を披露し、新入生の新たなスタートを力強く後押ししてくれました。

式後、新入生は教室に戻り、担任の先生からの話を聞きました。緊張の中にも希望に胸を膨らませた新入生が、甲子園学院の一員として、充実した学校生活を送ってくれることを願っています。

○対面式・部紹介

四月十日に対面式、部紹介を体育館で行いました。入学式には中学二年生と高校二年生は参列でき

ていなかったのですが、在校生と新入生が一堂に顔合わせをするのは、対面式が初めてです。

最初に宮島校長からお話があり、その後、吹奏楽部が歓迎演奏を披露しました。次に在校生代表から歓迎の言葉が、新入生代表から誓いの言葉がありました。最後に生徒会から各クラスに花束の贈呈を行いました。

部紹介は新入生に向け、勧誘を行うイベントで、生徒会の司会進行で行われました。各部活動がさまざまな趣向を凝らし、新入生にアピールしました。新入生には部活動に入ること、学校生活がより充実することを期待します。

○自転車講習

四月十日、

西宮警察署の協力を得て、新入生対象に自転車交通安全講習会を行いました。



春の校外学習

中学校・高校一・二年生

四月二十六日、中学生と高校一・二年生は、校外学習でユニバーサル

スタジオヤパンに行きました。

高校生は現地集合で、公共交通機関を使って遅れずに集合することができました。入場門をくぐるとすぐに、生徒たちは事前に決めた班に分かれてお目当てのアトラクション向かって意気揚々と駆け出して行きました。



午前中は予定していたアトラクションに乗れたようで、昼の点呼では班のメンバーと楽しそうに話し合っている様子が見られました。グループの集合写真を撮った後、体験したアトラクションのことやこれからの予定を笑顔で話してくれました。

年連続で「高校生自転車交通事故防止アクションプログラム」の本部長賞を受賞しています。この講習で学んだことを活かして、今年度も無事故、無違反で安全に通学、生活してほしいと思います。

高野山慰霊塔参拝

高校三年生

退園する頃には両手にいっぱいのお土産を持ち、楽しい時間をいっぱい満喫した表情でした。校外学習での班活動を通して、新しいクラスメイトとの親睦を深めることができました。

四月二十六日、新緑が香る中、高野山にある「甲子園学院物故者慰霊塔」を参拝しました。慰霊塔では、学院関係物故者の冥福を祈るとともに、それぞれが希望する進路に進むことができるように祈願しました。その後、金剛三昧院で精進料理をいただき、生徒たちは普段では口にすることがない食

事を堪能しました。

食後は、メインストリートの小田原通り周辺の散策を楽しみました。お土産を渡す相手の顔を思い浮かべながら探している生徒からは、真剣な顔と笑顔が見られました。



生徒たちからは「高野山を経験できてよかった」「学院の歴史について興味を持つきっかけになった」など、前向きな感想が多く聞かれ、有意義な参拝となりました。

体育大会

五月三十一日が雨天中止となったため、順延した六月四日、中学校・高等学校合同体育大会を実施しました。

今年度の体育大会は百メートル走、玉入れ、スウェーデン箱

運びリレー、綱引き、学年対抗リレー、クラス対抗仮装行列、そして高校三年生によるマスゲーム

が加わった、全七種目が構成されました。各種目で白熱した戦いが繰り広げられました。



その中でも高校三年生の活躍が素晴らしく、総合優勝を勝ち取りました。また仮装行列でも三年一組「湯婆婆」を筆頭に高校三年生が上位を独占しました。マスゲーム

では、ソーラン節の音楽に合わせて迫力のある演技が行われ、会場を盛り上げました。体育大会全体を通して、選手に対して大きな声で応援する姿や、誇らしげな表情が多く見られ、素晴らしい体育大会となりました。

宿泊研修

五月八日～十日

高等学校一年生が淡路島で宿泊研修を実施しました。

第一目の「淡路島体験型SDGsプログラム」では、土入れや火おこしなどの体験活動を通じて持続可能な社会のあり方についてより深く学ぶことができました。

ホテルにおいては、職業体験や一般教養

として、ベッドメイキングやテールブルーナーなどを学び、おもてなしの裏にある努力を知りました。



また、国営明石海峡公園や兵庫県立公園あわじ花さじきに行き、大自然を肌で感じながら、様々な集団活動やゲームなど行いました。仲間との親睦を図ることができ、実りある研修になりました。

研修後の生徒の感想には、「土がなくても植物が育つことを初めて知った」「様々な体験で、失敗しながらも楽しむことができた」「みんなで協力して楽しみながら達成感を得られた」などの声があり、楽しみながらも得るものがあった宿泊研修となりました。

夏季旅行

中学生は六月十二日から十四日、二泊三日の日程で夏季旅行に行きました。

今年度は一日目をデイズニールランドにしたことにより、退園時間まで遊ぶことができました。夜のパレードも鑑賞することができ、生徒たちも一日中思う存分に夢の国を満喫することができました。二日目のデイズニールでは多

修学旅行

高等学校三年生は、六月十日から四泊五日で、東京と北海道へ修学旅行に行きました。

一日目の東京では、厳肅な雰囲気のもと靖国神社の本殿参拝を行い、続いて遊就館では、普段目にするのできない資料の数々やモニュメントに生徒たちは目をひかれ、今ある平和の大切さを実感しました。その後、TOKYOパノラマドライブ（オープンバスツアー）に参加して、東京タワーやレインボーブリッジなど東京の名所を巡りました。



くの新エリファントファンタジースプリングスに入場することができました。その規模と世界観に圧倒され、興奮した様子で「すごかった」と話していました。また園内では多くのアトラクションに乗ることができ、中には人気のアト



二日目は北海道に渡り、函館市内を散策しました。五稜郭や赤レンガ倉庫などを見て回り、普段とは違う街並みを楽しみました。宿泊先の旅館では、海鮮を中心にした最高級のビュッフェを堪能し、多くの生徒が大満足の一日でした。三日目からはニセコでの宿泊になりました。その移動途中で、大沼国定公園に立ち寄り、サイクリングやペダルボートで汗を流しました。ニセコに到着してからは、リバーフィッシングなど様々なアクティビティを体験しました。

四日目の午前中はラフティングを行いました。七kmの尻別川を班



ラクシヨンのタワー・オブ・テラに三回も挑戦したという生徒もいました。

三日目は上野動物園でパンダをはじめ、多くの動物を見ました。原宿散策では竹下通りに行きました。通りの両側にファッションや雑貨系、スイーツなど多くのお店が並んでいて、楽しめました。天候にも恵まれた三日間の共同生活を通して、協力することの大切さや社会性を学ぶことができました。夏季旅行になりました。

員で協力して下りました。午後からは、「ジップライン」と「高橋牧場」へ行くグループに分かれ活動しました。ジップラインでは、日常では体験できない眺望に興奮した様子でした。高橋牧場では、牧場で採れた生乳を使ったデザートや食事を楽しむことができ、満足した様子でした。



最終日は、小樽に移動し市内散策を楽しみました。ガラス細工やオルゴールなどの工芸品や街の雰囲気を味わいながら、生徒やグルメを食べ歩いている生徒もいました。その後、千歳空港より飛行機に乗り、帰路に就きました。

吹奏楽部 定期演奏会

五月二十三日、あましんアルカイックホールにて、本校吹奏楽部の第十六回定期演奏会を開催しました。今回の演奏会は一年生を含めた新体制初めの大舞台での本番でした。最高の舞台となるよう、リハールサルではホールの響きを感じながら演奏し、一段と磨きをかけ本番へと臨みました。



第一部は、「富士山」北斎の版画に触発されて」をオープニングに飾り、今年度の全日本吹奏楽コンクール課題曲を含む数曲を演奏しました。第二部では、KGB紅白歌合戦「時を越えて愛される音楽2000-2010」をテーマに、生徒がまだ幼いころに流行したポップスを演奏しました。今回の演奏会の来場者数は約千三百人にものぼり、来場していたいた観客の皆様には、生徒らの歌やダンスなど、様々なパフォーマンスと演出で楽しんでいただきました。次回の定期演奏会は十二月十日に予定されています。

令和六年度 入学式

四月三日、学院中高の講堂において入学式が挙行されました。

久米知子理事長・学院長先生、ご来賓ならびに保護者の皆様と在学学生が一堂に会して厳粛な雰囲気の中、早坂三郎学長より新入生へお祝いの言葉があり、新入生からは短大生としての誓いの言葉が述べられました。式後のスタートアップ・ガイダンスでは教員紹介に始まり、授業や資格取得、奨学金、学生生活や就職支援等の説明があり、電子学生証やメール等の登録も行われました。



新入生は、新たに始まる学生生活に期待と緊張を感じるとともに、「それぞれの専門分野の学習や資格取得を目指し頑張ろう」という強い決意も抱いた様子でした。主体的で積極的な二年間の学びが期待されます。

高野山研修

四月四日、II回生の高野山研修を実施しました。現地では直前に降り出した雨で、慰霊塔までの道を案じましたが、バスが着くと小雨になり参拝の頃には晴れました。先人のご遺徳を偲び、学院で学ぶことの意義、そして最終学年となった自覚と将来への誓いを胸に、静かに手を合わせました。昼食は金剛三昧院で精進料理をいただき、その後は付近の散策を楽しみました。



介護福祉士国家試験・全員合格

一月二十八日に介護福祉士国家試験が実施され、生活環境学科介護福祉フィールドから四名が受験しました。学生たちは授業、介護実習と並行して国家試験受験へ向けての勉強を積み重ね、努力の結果、全員が見事合格しました。卒業後も出会う人々との関わりを一つひとつ大切に、関係を丁寧構築していくことのできる質の高い介護福祉士として成長していくことを祈っています。

本格的に始まった データサイエンス授業

短大は、文部科学省より令和五年度「数理・データサイエンス・AI・教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されました。次の段階「認定教育プログラム（リテラシーレベル）プラス」に向けて令和六年度は、デジタル技術の活用を通して生活やビジネスを変革するDX（デジタルトランスフォーメーション）人材の育成を目指して取り組んでいます。その第一回として、六月十二日「IT技術I」の授業において、システムコンサルティング事業を展開する「株式会社ReAct」

絵本コンクール

読書離れが進む中、乳幼児への読み聞かせや、高齢者や成人を対象としたおはなし会など、絵本を使った読書活動の啓発が注目されています。そこで短大では、絵本づくりを通して絵本への関心を深めてもらうため、今年度も作品を募集しています。応募の締切りは九月二十日必着で、高校生が対象です。応募規定は未発表のオリジナル作品であること等で、詳細は短大ホームページでご確認ください。なお入賞作品には賞状と副賞が授与され、読み聞かせ動画として配信する予定です。

令和六年度 全学交流会

六月二十一日、学院中高体育館にて学生会主催の全学交流会ドッジョール大会を実施しました。新役員の学生たちにとって最初のイベントとなり、何を準備し、どのような役割が必要なのか戸惑いながら進めていました。全学生交流の場ということで、チームは普段接点のない学科・学年関係なく混合のチーム分けを行い、時には教職員も参加しました。はじめて顔を合わせるチームメイもいる中、白熱した試合展開で、声も大きくなりました。コート外から熱い声援を受けながら、ポールから逃げたり追いかたり、また必死に投げたりの普段授業では見せない表情や頑張りをあちらこちらで見ることができた楽しいひとときでした。優勝チームにはアイスクリームが授与され、全員に参加賞としてお菓子が配られ、みんな笑顔での閉会となりました。



高校生エッセーコンクール

短大教育の周知を兼ねて、進路選択の岐路にある高校生に、自分探しと社会貢献に關しての早い時期での「気づき」の機会を提供することを目的にスタートし、第十回を迎える当コンクールの今年度のテーマは「守るいのち・広める防災」・私たちが取り組むこと」です。（募集期間は九月二十日まで）詳しい応募要項や応募用紙は短大ホームページに掲載しています。応募作品は厳正な審査を経て十月下旬頃に結果が発表されます。優秀賞（二点）、奨励賞（若干名）に表彰状及び副賞が進呈されます。なお表彰式は十月二十六日の大学祭当日に開催予定ですが、変更する場合があります。

新生活はじまる 入学式・新入生歓迎会

令和六年

度入学式を
四月五日、
三号館大講
堂において
挙行しまし
た。当日は
春らしい晴
天に恵まれ
ました。



伏木亭学長が式辞を述べ、続いて新入生代表として栄養学部守屋くんが宣誓を行いました。新入生は緊張のなかにも、期待に満ちた表情で式典に臨み、新たな学生生活がスタートしました。

また、四月十三日には、新入生



歓迎会が行われ、甲友会が制作した新入生歓迎ムービーの上映やクラブ・サークルの紹介、軽音・フォークソングサークルの演奏がありました。新入生は、クラブ・サークルのブースで先輩との交流を楽しんでいました。新入生はもちらんのこと、在校生の先輩にとっても新しい年度や出会いの始まりを実感する日となりました。

新しいコース・領域が始まる！

◆新コース「美と栄養コース」

栄養学部栄養学科では、新たに「美と栄養コース」が誕生しました。多様な食べ物があふれる世の中で、「いつまでも美しく、若々しくありたい」と願う人が増えています。健康で長く生きるためには、上手な食品の選択と食事の仕方が大切です。

新コースでは、美につながる食品や栄養素・機能性物質について、また、肌や口腔内環境・腸内環境と美しさの関係など、インナービューティやアウトビューティに関わる最新の栄養学や食品学、生

理学などを学ぶことができます。コースを修了すると、『美と栄養専門士』（本学認定資格）が取得できます。美と栄養専門士となることで、管理栄養士としての専門的知識や技術を基礎に、身体の内側と外側の両面から美しくあり続けるためのアンチエイジングを意識した食のアドバイスができるようになります。管理栄養士が、美容の世界でもこれから活躍できることを期待します。

栄養学科では、他にも「食と健康サイエンスコース」「スポーツ栄養コース」「メデイカル栄養コース」「食育コース」があり、それぞれの現場に必要な専門的知識や技術が学べます。

◆現代メデイア心理学領域 新設

心理学部現代応用心理学科では、今年度から、「現代メデイア心理学」領域を新設しました。これにより臨床、犯罪、健康・スポーツ、ビジネス、発達と併せて六つの領域になり、より幅広く実用的な心理学を学べるようになりました。

新聞、雑誌、テレビ、電話など人と人をつなぐ媒体、またアニメやゲームなど表現の媒体を「メデイア」といいます。近年ソーシャルネットワーク（SNS）などの新しいメデイアの登場により人と人とのつながり方が大きく変化し、また、アニメやゲームの表現が格段に進化して、新しい体験や新しい楽しみ方が生まれています。このような進化が人のこころに与える影響を考えていくのが「メデイア心理学」です。実際の授業では、メデイア心理学に関係するさまざまなテーマを取り上げていきます。

メデイアがもつこころの癒しにつながる側面だけでなくこころに悪影響を及ぼす影の側面についても探求します。また、メデイア関連のアプリの使い方を修得できるような授業も検討しています。

このように、心理学部では「現代メデイア心理学」領域を通して、今まさに変化しつつある「こころ」を捉えていきます。

日本農芸化学会で 研究成果を発表

三月二十四日から二十七日、

「日本農芸化学会二〇二四年度大会」が東京農業大学で開催されました。本大会において、栄養学部・フードデザイン学科の田平琴音さんが「ハイクアカオチョコレート」の嗜好性に対する調査研究」について、研究成果の発表を行いました。



田平さんは、ミルクチョコレートとハイカカオチョコレートの嗜好性の特徴について詳しく調査研究し、その研究成果から、チョコレート市場拡大の方策についての提案も行いました。企業や大学の多くの研究者が、熱心に聴講していました。

公認心理師国家試験 新卒者合格率一〇〇％

令和六年三月に行われた第七回公認心理師国家試験において、令和五年度に大学院心理学研究科を修了した四名が受験したところ、全員合格となりました。これから臨床心理学の専門的知識・技能を備えた人材の養成に尽力していきます。

実践授業や研究の場 菜園実習場

令和四年六月にオープンした菜園実習場は、栄養学部食創造学科の食料生産学入門や食と地域の実践演習などの授業、栄養学科の食育や地域連携活動、また大学院栄養学研究科の研究や部活動（食農倶楽部）で利用され、大学職員が利用する区画もあります。これまで、サツマイモ、ジャガイモなどのイモ類、キュウリ、ナス、トマト、オクラ、シシトウなどの夏野菜、イチゴ、スイカなどの果実的野菜、枝豆、小豆、落花生などの豆類、ホウレンソウ、ブロッコリー、ハクサイなど多くの作物が収穫できました。ウメ、レモン、ナシ、ブドウ、



出た野菜くずを使った堆肥作り、無農薬・有機栽培など、環境に配慮した栽培をしています。写真は昨年の春に食創造学科の一年生とイチゴ狩り（宝交早生という宝塚で改良された品種）をした様子です。このイチゴを使った地域連携や商品開発にも取り組んでいます。今年もたくさんのイチゴが収穫できました。

学院生の活躍

○数字は開催月

中学校剣道部

④西宮市民体育大会剣道大会
中学一・二年生 女子の部

優勝 木和田なつめ (中二)

準優勝 白川 琴葉 (中二)

3位 難波ひいな (中二)

3位 鎌田 心桜 (中二)

◇中学三年生 個人の部

優勝 菱谷 芽生 (中三)

準優勝 山内 穂佳 (中三)

高等学校剣道部

④西宮市民体育大会剣道大会

◇高校女子初段以下の部

優勝 西馬 和花 (高一)

3位 小松真奈美 (高三)

◇高校女子二段以上の部

優勝 藤本ひなの (高三)

準優勝 井上 珠葵 (高三)

3位 橋本 凜音 (高三)

3位 三葉 類 (高三)



④阪神地区高等学校総合体育大会

団体 優勝

個人 優勝 三葉 類 (高三)

準優勝 福家 千紘 (高三)

3位 井上 珠葵 (高三)

3位 三葉 礼 (高一)

⑥兵庫県高等学校総合体育大会

団体 準優勝

個人 優勝 橋本 凜音 (高三)

準優勝 藤本ひなの (高三)

3位 井上 珠葵 (高三)

3位 福家 千紘 (高三)

個人戦優勝の橋本凜音さんと準優勝の藤本ひなのさんの二人は、八月に大分県大分市で開催される全国高等学校総合体育大会剣道大会へ出場します。また、団体戦は準優勝でしたので、七月に和歌山市で開催される近畿高等学校剣道大会に出場します。

中学校バレーボール部

④西宮市中学校市民体育大会バレーボール競技大会 **優勝**

⑥阪神中学校バレーボール男女優勝大会 **優勝**

高等学校体操部

④阪神地区高等学校体操競技大会

団体 2位

個人総合

3位 鈴木美弥乃 (高二)

種目別跳馬1位 鈴木美弥乃 (高二)

段違い平行棒 1位 土手下星空 (高二)

ゆか3位 鈴木美弥乃 (高二)

⑤兵庫県総合体育大会体操競技選手権大会

団体 3位

種目別跳馬1位 鈴木美弥乃 (高二)

⑥近畿高等学校体操競技・新体操選手権大会

団体 4位

種目別跳馬1位 鈴木美弥乃 (高二)



二年連続

世界ジュニアゴルフ選手権出場

茨城県的美浦ゴルフ倶楽部で開催されたPGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会東日本決勝大会(13・14歳女子の部)において、山下萌寧(中二)さんが準優勝しました。その結果、日本代表選手となり、アメリカサンディエゴで行われるIMG A世界ジュニアゴルフ選手権の出場権を二年連続で獲得しました。昨年よりもさらに上位に入賞してくれることを期待しています。



関西吹奏楽功労者顕彰祭 発展を願う演奏

五月五日、西宮神社関西吹奏楽功労者の碑前広場にて行われました「関西吹奏楽の日」に、関西吹奏楽コンクールで三年連続金賞に輝いた本校吹奏楽部が招待されました。「オーメンズ オブラブ」や「勇気の旗を掲げて」「ミセスグリーンアップル メドレー」「Jーベストメドレー」などを演奏しました。



「室内の演奏とは異なる環境で演奏できたことは、貴重な経験となりました。子どもたちの喜ぶ姿をたくさん見ることができ、演奏の励みになりました。これからも多くの方に喜んで聞いていただけるように頑張りたいと思います」と、今後の活動に向けての決意を述べました。

役職人事

退職

幼稚園 園長

(三月三十一日)

塚本 康子

採用

幼稚園 園長

(四月一日)

澁谷 倫子

園の輪

そののわ No.187

令和6年7月12日発行

学校法人 甲子園学院

〒663-8107 西宮市瓦林町4番25号

TEL. 0798(67)2100

FAX. 0798(67)5488

<http://www.koshien.ac.jp/honbu/>

あとがき

◆「園の輪」の創刊(昭和三十九年)から今年で六十周年を迎えます。編集委員の一部が変わりましたが新しいメンバーで、今後とも、よりよい誌面づくりに努めてまいります。皆様のご意見や感想をお寄せください。

令和6年度 園の輪編集委員

久米多香子(編集委員長)	福田 典子(大)	浅井 航洋(大)	片桐由美子(大)	堀田 浩之(短)	中野久美子(短)	猿丸 恭子(短)	加賀瀬順平(中)	奥野星玲奈(中)	森本 大智(小)	西田 朋世(幼)	坂田 和隆(法)	樋口 信一(法)	西脇 敏行(法)
--------------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------